



## 交通安全はルールを守ることから

常に潜んでいる危険を意識して

(一社)川西交通安全協会  
会長 住野 敦浩さん

### 原因者の約半数が24歳以下

自転車の事故件数が県内全体では年々減っているにも関わらず、市は減少しているとは言えません（下表参照）。5・6月にかけて、自転車事故が増加傾向にあります。4月は新学期を迎えたり、環境が変わったりすることで、緊張や用心する人が多いですが、5・6月になると環境に慣れることで油断が生まれ、事故が増えようとしています。また、実は自転車事故の原因者の約半数が24歳以下なんです。片手にスマートフォンや飲み物を持ちながら運転したり、並走して話しながら走ったり、何気なくしている交通ルール違反が事故を引き起こし、取り返しのつかないことにつながってしまいます。

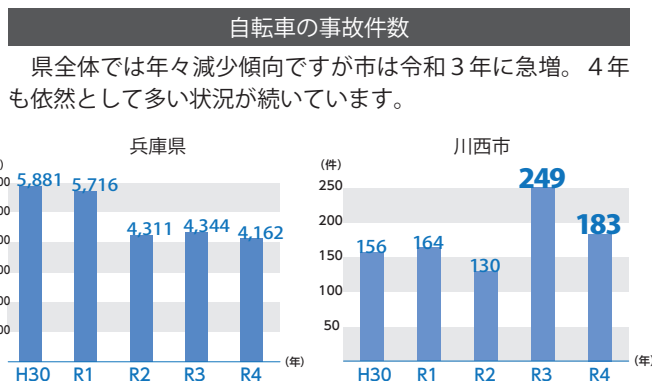
### 朝8時台に事故が多発

自転車事故の発生が最も多い時間帯は朝の8時台。通学や通勤など、みんな目的地へ急いで向かっているということが共通しています。当事者の多くが、自分の運転を上手だと思っているんです。過信せず、常に危険があ

乗車用ヘルメットは、事故が起こったとき、自分の命を守るための重要なアイテムです。もともと13歳未満は着用が努力義務化されていましたが、4月から全年齢が対象になりました。しかし、着用している人はまだまだ少ない状況です。どんな自転車に乗るときでも、また近くに行くときでも、忘れず着用しましょう。

### ヘルメットの着用を

るかもしれないと思って運転してほしいです。



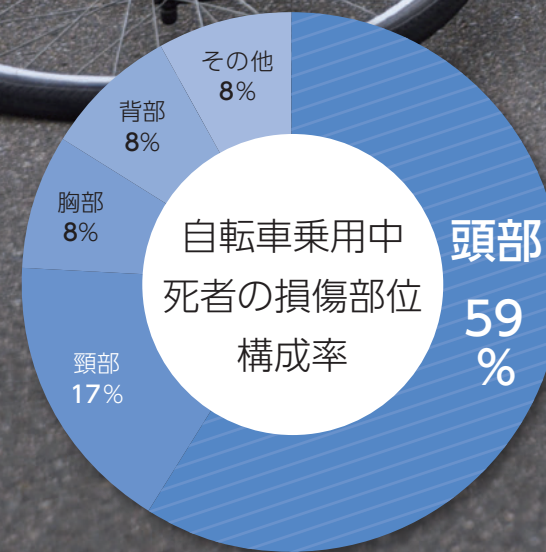
# 特集 守ろう。自転車ルール

多くの人が気軽に乗っている自転車。実は最近、市内で自転車事故が多発しています。4月から乗車用ヘルメットの着用が努力義務化されたこの機会に今一度交通ルールや事故を起こさないための対策を確認しましょう。

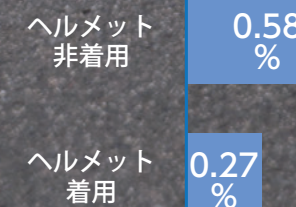
詳しくはこちら



問い合わせ 交通政策課 ☎ 072(740)1184



### 自転車乗用中のヘルメット着用状況別の致死率 (平成30～令和4年合計)



死亡リスク 約1/2に減少

出典：県「自転車の交通事故の現状(令和3年)」

出典：警察庁ホームページ

### 全年齢の乗車用ヘルメット着用が努力義務化

道路交通法が一部改正され、自転車利用者の乗車用ヘルメット着用が努力義務化されました。自転車乗用中の死亡事故の内、約6割が頭部の損傷によるものです。乗車用ヘルメットを正しく着用することで、頭部損傷による死亡の割合を2分の1に減らすことができると言われていました。自転車の乗るときは命を守るために、乗車用ヘルメットを積極的にかぶりましょう。

### 事故件数が県内ワースト4位

市の過去3年間(令和2年、4年)の人口一万人当たりの自転車関係事故件数は、県内で4番目に多い状況です。それを受けて、6年3月31日(日)まで、市は「自転車交通安全対策重点推進地域」に指定されました。悲惨な事故を減らすためには、一人一人が交通ルールを守らなければいけません。今回は、自転車事故を引き起こさない、遭わないために一人一人ができる対策や、市などが行っている取り組みを紹介します。

## 知っていますか 自転車安全利用五則

### 1. 自転車は車道が原則、左側を通行 歩道は例外、歩行者優先

歩道を通行できる箇所は道路標識で指定されています。歩道を通行するときは車道側に寄って、歩行者を優先しましょう。ただし、13歳未満の子どもや70歳以上の高齢者、体が不自由な人は全ての歩道を通行できます。



### 2. 交差点では信号と一時停止を守って安全確認

信号機のある交差点では、信号に従わなければいけません。信号機のない交差点で、一時停止の標識がある場合は、一時停止を。狭い道から広い道に出るときは、徐行して安全確認をしましょう。



### 3. 夜間はライトを点灯

夜間、自転車で道路を走るときは、前照灯と尾灯(または反射器材)を付けなければいけません。



### 4. 飲酒運転は禁止

酒気を帯びて自転車を運転することは禁止されています。その他、並走や二人乗り、過積載、ブレーキ不良自転車の運転なども禁止されています。



### 5. ヘルメットを着用

同乗者も含め全ての自転車利用者は、乗車用ヘルメットを正しく着用するよう努めなければいけません。





お知らせ

出前講座

手作り教材で指導

## 幼児交通安全教室

問い合わせ 交通政策課 ☎072(740)1184

楽しく交通ルールを学べる教室です。市の交通指導員が、地域、保護者の集まりに出向きます。

人形劇や紙芝居などの手作り教材や模擬信号を使って室内で指導します。

**対象** 市在住の未就学児と保護者  
(親子5組10人以上の団体で実施)

**申し込み** 電話か市役所5階の交通政策課で受け付け

こうつう  
あんぜん

## 交通事故 ハザードマップ

問い合わせ 交通政策課 ☎072(740)1184

自転車事故だけでなく、市内の交通事故が起きやすい箇所をコミュニティごとにまとめた「交通事故ハザードマップ」を作成。

事故が起こりやすい状況や事故の特徴なども紹介しています。自分と家族、周りの人の命を守るために確認してください。

同ハザードマップは市ホームページから確認できます。



自転車シミュレーターを活用

## 危険予測能力を高める

問い合わせ (一社)川西交通安全協会 ☎072(759)8947

(一社)川西交通安全協会に設置されている「自転車シミュレーター」。日本損害保険協会から県交通安全協会に寄贈され、川西交通安全協会の交通安全活動実績を踏まえて同協会に設置されました。

実際の交通状況を再現し、街中での自転車の運転を模擬体験できます。自転車を運転する際に起こりうる危険を体験し、危険予測能力を高め、安全意識の向上を図ります。

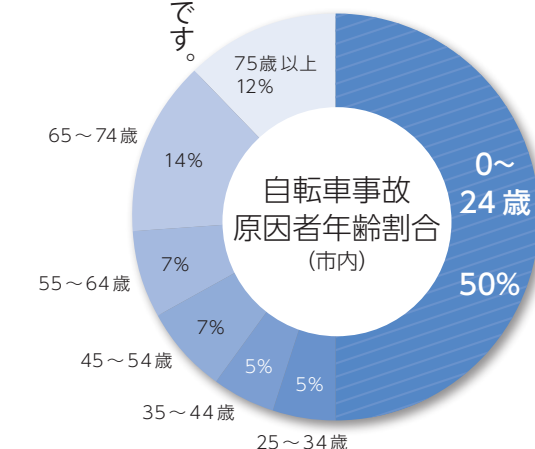
利用を希望する人や団体は、同協会へ。



### ◎安全運転のポイント

1\_出発する際は安全確認 2\_信号が青になっても、「右左右」を確認してから 3\_(一社)川西交通安全協会から寄贈された乗車用ヘルメットを講習で使用 4\_出入口や交差点付近は要注意。歩行者や車が飛び出してくることがある

市内の小学校などで交通安全教室を実施  
学ぼう！  
正しい乗り方



出典:県交通事故統計オープンデータ(平成29~令和3年)

## 幼いときに ルール身に付けて

川西警察署 交通課交通総務係  
警部補 長谷川潤さん

### 通学時などで事故が多発

小・中学生、高校生が自転車乗車中に交通事故を起こす割合が高いことは、データで出ています。自転車利用の経験が浅いことや、高校生になると自転車通学が増えることなどが要因の一つでしょう。

事故を防ぐために、幼いころから交通ルールを学び、身に付けておくことが大切です。

### 保護者が見本になって

小学生向けの交通安全教室で、「自分の自転車ヘルメット、持っている人！」と聞く、手を挙げる子は数人程度なのが現状です。

自転車運転時はハンドルを握っており、転倒したとき受け身を取ることが難しいです。



また、子どもの体は発達途上であるため、転倒すると頭を打ちつけてしまうことが多いのです。ヘルメットの装着が、命を守ることに直結します。保護者が率先してヘルメットをかぶり、子どもにもその姿を見せてほしいですね。

### 保険の加入が大切

ひとたび自転車に乗って事故を起こしてしまえば、子どもがおとなかは、関係ありません。実際に、子どもが起こしてしまった自転車事故で、その子どもの保護者に9000万円以上の損害賠償命令が下った事例があります。交通ルールを守り、事故を起こさないことはもちろんですが、自分や家族、周りの人を守るために、自転車保険に加入することも大切です。

## 市長メッセージ 啓発と整備 両輪で取り組みます

市長 越田 謙治郎

自分が大きな自転車事故を引き起こす恐れがあると想定している人は、少ないのではないのでしょうか。

特に若いころは運転に自信がありますし、遠くの場所などへ自転車で行く機会が多いでしょう。

しかし、一度事故を起こしてしまうと、被害者やその家族、また自分の家族の人生を大きく変えてしまいます。

自分の運転が他者を巻き込み、多くの人の人生に影響を与える恐れがあることを考え、安全に運転することが大切です。

事故を防ぐためには、保護者や周りのおとなが子どもにリスクを伝え、常に模範とな

る行動を心掛けることも欠かせません。  
残念ながら、川西は県内でも自転車事故が多いのが現状です。事故の多くは、交通ルールを守ることで防ぐことができます。  
市としても、引き続き啓発を強化するとともに、道路などの改善に積極的に動いていく考えです。  
4年3月には、北部地域の高校の通学路に自転車専用レーンを整備しました。  
5年度も、自転車事故が多発している地域の環境整備などを進めていく予定です。  
財源は限られており、直ちに全ての課題を解消していくことは難しいですが、加害者も被害者も生まないために、効果的な対策を行うよう取り組んでいきます。

